

評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570512632号
法人名	シヤカイ フクシ ホウジン 社会福祉法人 久盛会
事業所名	グループホーム田園
所在地	由利本荘市岩城富田字根元10-22 (電話) 0184-62-5115
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成20年11月6日

【情報提供票より】 (平成20年10月20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 (常勤 7 人 非常勤 常勤換算 7 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐々木医院
---------	-------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

山間部の田園地帯に位置し、四季折々の豊かな自然の恵みを生かして野菜や花を栽培したり、散歩や地域行事への参加なども自由に利用者は自宅にいる感覚で過ごしている。
事業所に対する地域住民の理解が深く、岩手宮城沖地震では住民と一体となった防災訓練の成果が表れ、的確な安否確認や避難誘導など地域全体で利用者を守る体制を現実のものにしている。
また、内外の研修等に職員の積極的な参加を促し、管理者がスーパーバイザーとなって認知症ケアに求められる人材育成に力を入れている。
そのため、認知症ケアの専門職として利用者の潜在的な思いを汲み取り、それをケアに反映させるため、何よりも利用者と向き合う時間を大切にしており、清掃業務を業者委託するなどして利用者に関わる時間を有効に活用している。
今後は、地域の事業所連絡協議会等で実践を紹介しながら、地域全体のレベルアップのために積極的に働きかけていくことを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急災害時の対応として年4回の訓練を行い、訓練後の反省課題から非常持ち出し袋の置き場所を改め、普段から話し合うことで職員の自信につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し、一人ひとりの評価結果から事業所全体の評価につなげており、自己評価の内容を一覧表にして壁に掲げ、職員の意識啓発と自覚を促している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では事業所の詳細な活動報告と今後の計画、家族の要望等について討議し、地域住民が参加しての避難訓練の充実を図り、岩手宮城沖地震では実際に地域の方が安否確認に来てくれるなど取り組みの成果がみられる。 なお、行政との連携や関りはあるが、会議への参画が難しい状況のため、日程調整等工夫しながら参加を促してほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	写真付きの広報を家族に送付し、利用者の活動の様子や職員の紹介、連絡事項など分かりやすい情報提供に努めている。 また、苦情相談窓口や解決責任者、第三者委員などの体制を整え、意見箱の設置や家族との面会時などにも意向等を確認しているほか、東京都内の系列事業所に寄せられる意見などを運営及びサービス提供の参考にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	野菜の種子の提供や畑作業への助言・手伝い、収穫野菜の差し入れなどのほか、季節行事への参加や各種ボランティア活動の訪問、また防災訓練には地域住民も参加するなど幅広い交流と細やかな連携ができています。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念に基づき、地域の中でその人らしい生活の継続が出来よう、事業所の理念・目標は明確かつ具体的なものをつくりあげている。			医療と福祉を融合させた理想の法人理念を追求するとともに、事業所独自で介護目標及び理念を掲げている。 また、認知症介護に向く人、向かない人というタイトルで職員に求められる態度や姿勢を挙げ、理念に沿うよう意識付けしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に掲示すると共に、業務の見直しや行き詰った時の指針となるようにしており、方向性は一致しており実践に活かされている。			日々の業務やミーティング等で気付いたことを職員間で話し合い、管理者がスーパーバイザーとして理念の共有に努めている。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族・地域交流会の実施、地域・学生ボランティア、運営推進会議の開催、地域ケア会議、祭りへの参加、地域への出前講演などにより広く理解を得られるようにしている。					
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員は率先して挨拶しており、町内の散歩時には親しく話も出来ている。通りかかるときには声を掛けていただいている。町内会のは、果たすべき役割が多く職員の負担を考えはっていない。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩、買い物などではお互いに声掛けあい、季節の野菜や山菜を届けていただき、また避難訓練にも参加していただいている。地震があった時すぐに駆けつけていただいた。定期的にの地域協力を得ている。	○	近隣のミニデーターサービスとの交流を検討している。	農家の方からの畑作業の指導や種子の提供、収穫時期には農作物の差し入れがあるほか、昔語りやアートフラワー、お茶を点てるなどボランティアの訪問も多い。 また、元保健師の方が体操指導してくれるほか、隣接する母体法人運営の老人保健施設と共に行事を開催し、地域の方々が参加して交流を図っている。		
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人全体としてきめ細かに取り組んでいる。事業所としては認知症の理解・予防など地域の老人クラブへの介護教室など実施した。	○	ミニデーターサービスとの交流の中で運動や、高齢者体操など実施したい。			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を業務の見直しや更なるステップアップと捉え、職員のベクトルの一致を図っている。改善提案や新たな目標の設定が自主的に行われている。			職員一人ひとりが評価の意義を理解したうえで自己評価を行い、それを取りまとめて事業所全体の評価にしている。 また、自己評価の内容を一覧表にして壁に掲げ、職員の意識付けに生かしている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では運営、及び活動状況を報告するとともに、出席者から忌憚りの無い意見を頂き、事業所及び法人全体に意見の反映をさせ、全体的なサービス向上に取り組んでいる。			会議では活動状況などを報告して意見を求め、家族からの要望などにに基づき情報交換している。また、地域住民が参加しての避難訓練の充実を図り、岩手宮城沖地震では実際に地域の方が安否確認に来てくれるなど、取り組みの成果がみられる。	○	会議への行政の参画が低調であるため、行政が出席しやすいよう日程調整を含めて工夫しながら参加を促してほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域介護保険担当者や市町村担当者とは密に連絡を取り合い、サービス向上や健全な運営に取り組んでいる。			運営推進会議への出席率は低いが、合併以前からの行政との連携をそのまま引き継ぎ、法人として地域ケア会議に参加したり、地域包括支援センターとも連絡を取り合い情報提供している。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年後見人制度などの研修会に参加して理解を深め認知症の本人・及び家族の支援が出来る様に努めている。					
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修会への参加、及びマニュアルの作成、日常の指導を徹底している。また運営推進会議等でも事業所のみならず地域の虐待早期発見の啓蒙活動をしている。					
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	さまざまな職種の関係職員が関り、家族の負担の軽減を図りながら、ご家族・ご本人が望む最もふさわしいサービスが受けられる様に支援している。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人の意見を引き出すような雰囲気作りをするともに、出来るだけ意向に沿うよう改善に努めている。また運営推進員、第三者委員がこまめに来ていただき、それぞれの意見をくみ上げて運営に反映されている。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常的には面会時の報告、体調変化時はつど電話で行なっている。また、定期的に広報誌を発行するとともに、請求書郵送時にお手紙を添えるなど行っており、ご家族からも職員へお手紙をいただくことも多い。			事業所独自で写真付きの広報を家族に送付しており、日々の活動の様子や職員の紹介、連絡事項などを分かりやすく伝えている。また、家族の面会時や電話、手紙などでも状況を報告して情報提供に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体としては苦情解決委員会を設置しどの窓口へも申し立て出来る様になっている。また意見箱を設置するとともに、申し立て先など明確にし掲示されている。運営推進会議、面会等でも意見の引き出しに努力している。			苦情相談担当者や解決責任者、第三者委員を設置して苦情解決体制を整えているほか、事業所に意見箱を備え付けて意見等の集約に努めている。また、家族の面会時などにも意向等を確認しているが、なかなか意見が出ないため、東京都内の系列事業所に寄せられる意見などを参考にして、効果的な運営及びサービス提供につなげている。	○	利用者及び家族の潜在的なニーズを把握するため、事業所独自で意向調査を行ったり、家族会を組織して意見を集約するなど工夫しながらサービスの向上につなげてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内での毎月の会議の他、運営者等々との直接話しが出来る機会が設けられており、意見は反映されている。日常的に相談が出来やすい環境づくりに努めている。					
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は全員常勤採用するとともに、その他にパートも確保している。また、ケアに専念するために設備・外回り点検、清掃業務の一部委託、受診の支援、外出や、各種行事など、法人全体でサポートしている。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	大幅な異動などは行わない。退職などの場合は徐々に慣れる様に勤務体制に配慮している。しかしながらバーニアアウトの回避やスキルアップのための異動はサービスの質の向上の観点からも必要と考えている。			管理者はサービスの質の維持・向上を信念に日々職員を育てており、信頼関係に基づいたケアを基本としているため、できる限り異動がないよう配慮している。 また、日ごろから管理者自ら利用者に関わり、何かあれば話してもらうよう安心と親近感のある関係づくりに努め、職員異動時でも支障がないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で定期勉強会が開催されておりレベル目標に応じた参加が出来る。事業所内では外部研修派遣と日々OJTが繰り返され、段階ごとに指導職員も考慮された勤務体制が組まれている。各種資格の取得などにも積極的に支援している。			法人全体や事業所独自の研修機会を率先して確保しており、研修計画や希望等に基づいて積極的に内外の研修に参加している。 また、研修成果や情報を職員間で共有し、全体でのレベルアップにつなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の連絡協議会を立ち上げ、職員交流、研修会、相互訪問、実習の受け入れなど力を入れており、同じ職種の職員同士が共感したり、レベルアップ出来る様に支援している。			昨年度に地域内の13事業者による連絡協議会を立ち上げ、研修や職員交流等を通じて地域全体での共通認識を図り、足並みを揃えて質の向上に取り組んでいる。	○	他事業所に参考となる取り組みが多く確認できたことから、そのノウハウを共有するなど、中心的な役割を担いながら全体的な質の底上げにつなげてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常の居心地の良い場所の確保は多少困難であるが、談話室利用、食事会、各季節ごとの職員慰労行事等を開催している。達成感の得られる目標設定にも配慮している。	○	他部署との交流や系列各福祉施設とのスポーツ交流など推進して行きたい。			
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者等は、日ごろから事業所へ激励にきており職員の向上心や目標の持てる環境づくりに努めており、人事評価・給与制度も整備され適切に反映されている。					
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階はご家族からの相談が多いが見学、訪問などで意向の汲み取りに努めている。又入居初期にはフェイスシートを活用しご本人の理解を深めリロケーションダメージを抑えいち早く環境適合出来る様に職員の配置などに配慮している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居にいたる過程ではご家族・ご本人は大変なご苦勞されている事を一番に理解し入居前にフェイスシートを作成していただき家族史の振り返りや関係の再構築に努めている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係職種からの情報提供も含めさまざまなサービスの情報提供などに努めている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	使い慣れた品や今までの生活環境に近い生活が出来る様に努めている。フェイスシートを活用しご本人の理解を深めリロケーションダメージを抑えいち早く環境適合出来る様に職員の配置、共有スペースでの居場所、仲間作りなどに配慮している。			利用者及び家族と相談しながら、徐々に慣れていくよう使い慣れた物や愛着のある物を持ち込み、在宅に近い環境づくりに努めている。 また、隣接するケアハウスやデイから利用するケースもあり、職員と馴染みながらの関係を築いている。	○	男性利用者の受け入れについて、泊まりを含めた利用体験を行うなど、事業所の雰囲気や職員、他利用者とも馴染みながら利用できるよう工夫してほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の得意な事を把握し失敗することが無いように配慮しながら、職員が教えてもらうし姿勢で生活出来ている。その中で喜怒哀楽があり生き生きと生活している。畑仕事や調理作りなど人生の先輩であるとの念を持ち接している。			料理しながら調理方法を教わるなど、様々な生活の場面で発見や驚きがあり、利用者の培ってきた経験や知識を存分に発揮できるよう関わることで信頼関係を築いている。		
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	交流会や行事を通じ関係構築に努めている。しかしあくまでもご本人・ご家族はゲストでありホームはホスピタリティの場である事を鑑みながらご家族の必要以上の負担になる関係作りは考えていない。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居にいたる過程ではご家族・ご本人は大変なご苦勞されている事を一番に理解しホームは家族関係の再構築の場として位置づけ、さまざまな場面でご家族の協力が得られている。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	散歩や地域の人と会いやすい場所、外食などで機会を多くする様に努めている。友人、知人の訪問も見られている。広域の事業所であり必ずしも近隣の利用者だけではないため、日常的な関係の継続は困難な面も多い。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常的な家事などの活動、行事などでの関係作りや気の合う仲間や新たな関係作りに努めている。ご利用者どうしで外に出たり、談話コーナーでの井戸端会議や相談しあっている場面が見られる。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	移動先への訪問や家族からの電話相談などもあり関係を大切にしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント									
1. 一人ひとりの把握									
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人史や生活歴、ご家族からの情報とご本人からの希望や意向を引き出すように努めており、日常的に対話や傾聴を行っている。介護記録などにより職員は共通の認識を持っている。				利用者の生活歴等を踏まえ、利用者とは接しながら何を望んでいるかを把握するよう努め、食事の支度や洗濯、草むしり、塗り絵など利用者の意向を尊重し、職員会議で共通認識を図っている。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート、介護支援専門員、ご本人、ご家族等の情報により把握している。また若い頃の話など、ご家族も知らなかったようなことも日頃の対話を通じて把握できている。						
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の気分、心身の状態など総合的に見ている。残存機能の活用や、していること、出来ること、出来たことなど日々の介護記録に記載し、ご本人の意欲向上にもつなげている。						
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し									
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御本人・ご家族の意向を確認し合い、アセスメント、モニタリング、カンファレンスによりプランは作成される。また職員はケースの担当を受け持ち日常生活の視点からプランに反映している。				利用者の気持ちを捉えられるよう計画作成担当者である管理者の指導のもと、職員が気付いたことを記録し、それを職員間で話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の急変や介護度の変更時は速やかにプランを見直している。またケア担当者は少なくとも月に一度は経過をまとめ仔細な変化も見逃さないように努めている。				比較的軽度の方が多くあまり変化がないが、月1回は計画を見直しており、変化があれば隣接の老人保健施設の医師に相談し、家族の意向を確認したうえで関係者と話し合いながら見直している。		
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は具体的に記入されている。また個別ケアノート、連絡ノートも作成して情報の共有に努め、統一した対応や一人ひとりにあったケアに努めている。						
3. 多機能性を活かした柔軟な支援									
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人全体でサービスが途切れたり、ご家族の負担が増えないように支援している。				利用者の希望に応じて理美容室に連れて行ったり、治療が必要な方を医療機関に通院させたりと柔軟に対応している。 また、法人内の医師や看護師のほか、他事業所とも必要に応じて連携できる体制にある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働									
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	各機関とは法人全体としても密に連携を取り合っている。事業所としても地域ボランティアの応援、民生委員との連携、文化祭参加、集団予防接種など多岐にわたり支援に努めている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャー等との連携は図られている。グループホームに入居すれば、他の介護保険サービスは利用困難であり、地域には施設入所の方が利用できる資源は非常に少ない。コミュニティバスはあるが利用したことはない。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループホームにおいては、地域包括支援センターとの協働はほとんど無いが、今後、介護予防の利用が見込まれる場合は連携を図る。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向を重視している。また事業所の協力医療機関が、かかりつけ医になる場合は同意を得ている。協力医療機関とは連携が取れており常に適切な医療が受けられている。			隣接の老人保健施設に歯科診療室があり、希望により歯科医師の訪問診療を受けたり、地域の協力医にも相談できる体制がある。 また、利用者一人ひとりにかかりつけ医による健康診断を実施している。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業所の経営母体が専門病院である事から適切な指示や専門的医療が受けられている。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人の看護師、かかりつけ医療機関の看護師との連携は図られており、アドバイスをもらったり相談が気軽にでき健康管理は行き届いている。					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報提供、サマリーのやり取りなど入院中であっても訪問や状況の確認が行われ長期入院には至っていない。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階では終末期に対する具体的な方針は立てていない。	○	今年度中に具体的な方針や体制作りを行い終末期ケアをしていく予定である。	現状では看取りを必要とする方がいないため、看取りに関する具体的な方針は明確にしていないが、今後は必要になることが予想され、家族からの要望もあるため母体法人と管理者及び職員が話し合いを進め、今年度中には方針が決まる予定となっている。	○	看取りの方針を明確にするとともに理念や規定等の改正に向けて現在準備を進めており、早期の実現を期待したい。
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現段階では終末期に対する具体的な方針は立てていない。	○	今年度中に具体的な方針や体制作りを行い終末期ケアをしていく予定である。職員に対してはターミナルケアの勉強会、死生観の教育を検討している。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えに際しては関係者へは情報提供、フェイスシートなどにより詳しく情報を提供している。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊重し尊敬の念を常に持って接している。経験の浅い職員にもアドバイスし言葉遣いに注意しあっている。個人情報の取り扱いは規定により適切に保護される。				個人情報保護法の遵守と利用者のプライバシーや思いを尊重することを基本姿勢とし、管理者の指導のもと、職員間でも促し合いながら利用者の尊厳の確保に努めている。	
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の様々な場面において自己決定の支援や選択できる場面を増やし支援をしている。全くわからない場合などはそっと支援しつつ納得するのを待つ工夫をしている。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所では職員の業務割をしていない。あくまでもその日の気分や体調、天気などを考慮しながら、どんな1日を過ごしたいかを大切に一人ひとりのペースを守ることに努めている。しかし一時に全員の希望かなえることは難しい。				職員の都合や事業所の決まりを押し付けるのではなく、一人ひとりの言動やペースに任せて職員は見守っている。 また、自由に散歩に出かけたり、危ない時は声をかけて注意を促し、必要ならば手助けしながら支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装は実用性だけを重視せず、お洒落や身だしなみにも配慮している。カット、染め、パーマなど御本人の希望に沿って支援し外出や訪問で行っている。化粧なども継続できるように支援している。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事全般にわたり、毎日、得意なことが生かせるようし、食の基本は旬の食材、地産地消を大切に、外食や出前、談話室利用も楽しみの一つとなっている。地域的に毎日の買い物は多少困難である。食事中など嗜好の確認もしている。				食事の準備や片付けを共に行い、畑の収穫野菜を使って好みの料理をつくり、食べる時には関わった方に声かけしながら意欲につなげている。 また、職員は弁当を持参して同じ食卓で食べ、利用者がその日のおかずを話題にするなど和やかな雰囲気がある。 さらには、毎食の検食簿を記録し、献立に利用者の希望を反映させている。	
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望に沿うように努めているが健康面や安全面の観点から日常的に御本人の望むだけ好きなものを提供することは出来ない。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように「尊厳の保持」に配慮して支援している	すぐにオムツ等を使用していない。失禁の原因、失禁のタイプ、排尿パターンを把握し支援している。また失敗があってもそっと支援したり、清潔の保持に努めている。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	体調や希望を確認し、毎日安全に入浴が出来る様になっている。更衣などは羞恥心に配慮している。浴室窓辺には鉢植えがありゆっくり入浴できる。安全を確保する観点から夜間の入浴は行っていない。			毎日朝10時から夕方4時までの好きな時間帯での入浴を可能にしている。 また、観葉植物などで温泉のような雰囲気をつくり出し、職員が毎日の清掃と消毒を徹底して清潔感のあるリラックスした入浴を支援している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動性と休息のバランスに配慮し昼食後の30分の休息安眠への配慮をしている。時としてアロマの活用や明るさ、音、温度など環境の整備にも努めている。					
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが得意なことを生かし、失敗をしないように支援し、場面場面で主役に慣れるように努めている。達成感や生きがいに繋がるようにしている。			利用者の趣味や経験を生かし、書道の上手な方には毎朝曜日と日付を書いてもらい、食事や洗濯などの役割も担っている。 また、お花や塗り絵、物づくり、ゲームなどを楽しみ、張りのある暮らしとなるよう支援している。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことは社会性の保持や社会との関係継続の重要なものとして捉え積極的に支援している。殆どの方がお小遣し程度は管理できており、支払いや計算能力なども把握し記録している。					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	鍵を掛ける事無く自由に外に出ている。安全面に配慮し注意深く見守りしている。誘い合って外に出て季節を感じている。ゴミ捨てなども一緒に行くようにしている。夜間帯は、安全を確保する観点から不可能である。			施設の周りが自然豊かな田園地帯のため、毎日の散歩や買い物などで地域に出かけている。 また、花見やタケノコ採りなど四季折々の行事を通じて外出を支援している。	○	近くにスーパー等がない環境のため、気軽に買い物に出かけることは難しいが、できる限り日常的に買い物に出かけられるよう工夫してほしい。
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している	ご家族との遠方への外出の推進や、親族の見舞い、葬儀、法要なども積極的に支援している。事業所の楽しみとしては温泉旅行など遠出もご家族の参加を得て実施している。利用者個人に職員が付き添い出掛けることは困難である。					
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解が得られている場合は電話は自由に行っている。手紙は個々の能力に応じて支援している。手紙はよく来ており何度も読み返す姿が見られる。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問を事業所の都合で断ることは無い。面会時間は決まっているものの、ご家族にはいつでも可能なことを伝えている。面会の際には、居室だけでなく談話コーナー、共有スペースへ案内している姿も見られる。湯茶の準備、支援にも努めている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルにより整備さて周知されている。言葉や行動制限も拘束と捉え指導している。万一生命保護の必要と医師が判断した場合においても規定により実施することになっている。事例は無い。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	鍵を掛けることは行動障害の悪化を招くこととなるため職員には周知徹底されている。いつでも出られる安心感が落ち着いた生活継続に繋がっている。			玄関には鍵をかけず、チャイムによる察知と2か所の非常口にカメラを設置して利用者の安全を確保している。 また、開放的にしているため利用者の出入りは制限せず、危険がないよう見守りを徹底している。	○	法人内の他事業所に利用者の顔写真を配布し、日ごろから関わりを持って利用者の安全確保に努めていることから、今後は地域住民や関係機関にも働きかけ、地域ぐるみで見守る体制づくりに向け積極的に働きかけてほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必要以上の介入せず、一人で過ごす時間も大切にしている。常時モニターで見守り、安全性に問題があるときは適切に声掛けをしている。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々人の管理能力を見極めている。私物は管理能力が低下した場合は御家族の了解を得ている。日常生活用品は置き場所の確認や夜間の保管方法など取り決められている。ヒヤリハットノートを活用しリスクの検証をしている。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人として事故防止委員会がありマニュアル整備されている。ヒヤリハットノートや事故報告の規定もありリスク管理に努めている。一人一人の状態に応じたリスクをケアプラン上でも反映させている。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	マニュアルの整備、定期勉強会の参加、救命講習への定期参加がなされてる。事業所内では都度、状況変化時の対応方法などその時に一番高いリスクから指導している。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害、防災訓練などのマニュアル・計画が整備されている。避難誘導訓練は年2回実施されており、同法人との連携体制も整っている。近隣の参加を得て意見交換、アドバイスも得られている。	○	夜間は職員が一人である事から年4回にすることを検討している。	年2回の避難誘導訓練と年2回の消防訓練を実施し、地域住民や隣接の老人保健施設の協力を得ながら緊急時に備えている。 そのため、岩手宮城沖地震の際も前日に地震発生時の注意事項を確認し合い、職員が落ち着いて避難誘導し、地域の方も駆けつけるなど日ごろの災害対策の効果を発揮している。		
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	安全・安心は重要なこととしてとらえながら、ご家族には想定されるリスクを説明し行動制限や束縛の無い生活支援への理解を求めている。ケアプランにも盛り込んでおり同意を得られている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル管理、定期的受診や体重管理をしている。いつもと違うと感じたことは介護記録や申し送られ重点的な観察がなされている。またすぐ医療機関、ご家族にも対応を事前に協議しており急変や悪化は見られていない。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴と薬の内容がすぐわかるように、個別健康シートを活用し職員一人ひとりが理解できるように努めている。医療関係者への相談やアドバイスも得られている。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	精神状態の変化はまず脱水や便秘の関連を疑い、活動不足、脱水を改善するように努めている。また食事内容にも配慮し、排便の管理もなされている。					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは全身状態を悪化させず、肺炎を予防するための第一としている。毎食後、就寝前の口腔ケア、義歯の管理をしている。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みのものを取り入れながらバランスの取れた食事になる様に配慮している。また体重の増加や、水分摂取量など食事で調整できる部分は行っている。嚥下、義歯、咀嚼の状態に応じた大きさやなどは配慮している。			栄養バランスを考慮しながら献立を考え、食事の摂取状況や水分補給状況を日々のチェックシートで確認しており、夏場にはこまめな水分補給を心がけている。	○	例えば半年に1回でも栄養士等の専門家から献立をチェックしてもらったりなど、利用者の栄養バランスが適正かどうかを把握することが望まれる。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会、マニュアルにより整備されている。施設内は毎日消毒がなされ、流行期に強化期間を設け感染予防に努めている。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の消毒の他、毎月1回の大掃除を実施している。保存方法、加熱処理も徹底している。食材も長期保存せず、新鮮な食材を提供している。					
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲は花壇や鉢植えがあり、窓も開放的で大きく声を掛け合っている。和室からは来客者も見え出迎えの姿も見られている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きく開放的な窓から入る風、吹き抜けの天井から差し込む光と影、対面キッチンでの音や、香りなど五感を刺激し、かつ家庭的な環境づくりに努めている。消毒の徹底され臭いも無い。				母体法人の理念に基づき開設時から空間設計を工夫し、廊下も広く共有空間は吹き抜けで、天井から自然の光が差し込み、全館床暖で快適な空間としている。 また、共有空間には落ち着いた置物や絵画を飾り、観葉植物や鉢植えなどで落ち着いた大人の雰囲気大切にしている。		
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナーなどに談話コーナーを作っている。一人や、少人数で安心して過ごせるよう、隠れ家のような工夫をしている。						
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳や、カーペット、寝具など自宅での生活習慣を継続できる支援と、使い慣れた品々、本、アルバムなどで各自が自分のお部屋作りをしている。				居室は全体的にシンプルだが、構成能力の低下による混乱防止や安全性の観点からも利用者一人ひとりの状態に合った環境づくりに努めており、好みの家具や調度品を持ち込み、それぞれに配置を変えている。 また、花や写真、絵画、時計やカレンダーなどで個性があり穏やかに暮らせる居室環境を整えている。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみが無いよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気の取り入れ換気に心がけ、エアコン、床暖、空気清浄機など設備にも配慮している。温湿度計により確認できており、衣類での調整にも心掛けている。						
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり									
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は法的に定められたバリアフリー設計となっている。個々人の身体や認知機能に応じてPバー、カーペットや、畳、家具の固定など安全面に配慮している。必要以上のバリアフリーは身体機能の低下に繋がると考えている。						
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の名前やインテリアでの特徴作り、季節感のある装飾、目付ボードの書き込みなど失見当識に対するアプローチを大切に自己解決できることが多くなるように配慮している。						
	87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇、鉢植え、畑など一緒に作業や収穫を楽しんでいる。ベンチも設置のんびり日光浴をしている。						

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは、福祉理念、法人理念、事業所理念に基づき、認知症があっても人として尊厳ある生活の継続、社会との関わりを大切にしている。ケアの基本も、してあげる介護ではなく、現在の能力をできる限り維持しながら、その方にとって限りなく自立した生活が継続できるように支援している。

また生活継続の理念として環境づくり、食生活も重要なことと捉え、開かれた環境、恵まれた環境を十分に生かし、畑や花壇づくりなどの野外活動や毎日の散歩等活動性が高く、室内においてもこだわりを持った食事づくり、掃除等の活動性がありグループホームとしての役割、目的が成されている。当ホームでは一人のエキスパートではなく、全職員が質の高いケアを提供できることを目指し、日常生活支援の業務割をせず、常に個々人の希望や必要性に合わせ柔軟に対応できている。

研修参加や勉強参加により常に疑問改善に努め、また日常業務においても連絡、報告、相談により経験の浅い職員でも専門家同様の生活支援が成されている。今後も認知症の方が増えていくことが予想され、当ホームは地域との関わりを大切に、地域への啓蒙活動の拠点として全職員が一丸となり取り組んでいく。